



〈安川敬一郎〉  
1849-1934

「天恵を私せず、若者の教育により、国家に役立てたい」安川のこの思いが教育界の巨人 山川健次郎の心を動かし、明治専門学校の開校に結実。



〈明専トランプ〉  
1907

明専時代から学生に親しまれてきた独自のカードゲーム。通称「明トラ」。「タンツェン」、「吹く」など専門用語が飛び交い奥深い心理戦が繰り広げられる。



〈明治専門学校〉  
1909～1949

1909年に開学した九工大の前身。人間教育の場として四年制、全寮制にこだわり、建学の理念「技術に堪能なる士君子」の養成への思いは今も息づく。



〈旧本館〉  
1909～1971

開学から、1971年に解体するまでの明治専門学校/九州工業大学のシンボル。東京駅や日本銀行本店などを手掛けた日本近代建築の父 辰野金吾による建築。



〈正門〉  
1909～

鉾津煉瓦ブロック造りの重厚な姿は、開学時からの九工大の歴史を伝える貴重な建造物。経済産業省による近代化産業遺産に認定。



〈明専会〉  
1915～

伝統、母校愛そして同窓の絆。全国に45支部と16分会、海外には3学友会を持つ同窓会組織。母校の教育・研究支援にも大きな貢献。



〈校旗〉  
1931

明治専門学校/九州工業大学の教育精神の象徴。中央に本学の校章「鳳龍」を配し、鳳龍の旗とも称される。デザインは公募により卒業生の作品が選出。



〈嘉村鋼〉  
1935

「鉄は国家なり」。嘉村平八はCO<sub>2</sub>削減に寄与する画期的な水素還元製鉄法を確立。日本の経済発展に製鉄の分野から貢献。その功績を記念し嘉村記念賞が創設された。



〈カップヌードルのデザイン〉  
1971

日清食品カップヌードルのパッケージデザインを手掛けたのはOBの大高猛。他にも1970年大阪万博のシンボルマークなど多くの親しまれる作品を生み出した。



〈Fスケール〉  
1971

Mr.トルネード 藤田哲也が提唱したFスケール。米国で航空機事故の原因を突き止めるなど多大な功績を残した。これは母校九工大に凱旋した際の直筆サイン。



〈フォーミュラカー〉  
2004～

今年結成18年目を迎えた学生チーム「KIT-Formula」。毎年、新車両を制作している。「学生フォーミュラ日本大会」での最高順位は2015年の8位。



〈カプセル型内視鏡ロボット〉  
2008～

口から飲み込み、体内を自走しながら撮影を行う、患者・医師双方にとって負担の少ない体内検査を目指すカプセル型内視鏡ロボット。



〈鳳龍式号〉  
2012

いまや小型衛星運用数で3年連続世界1位を誇る九工大の記念すべき宇宙投入一号機。2021年はBIRDS4衛星、衛星FUTABAの打ち上げも予定されている。



〈MSSC〉  
2013～

マレーシアアプロラ大学内に設置したサテライトキャンパス。毎年このMSSCを拠点に多くの学生交流や国際共同研究などが行われている。



〈Team KUROSHIO〉  
2015-2019

西田祐也准教授が共同代表を務めるXPRIZE 海底探査国際コンペに挑んだALL JAPANチーム。自律型海中ロボットで海底マッピング技術を競い準優勝に輝く(賞金1億円!)



〈水中ロボット〉  
2016～

膨大な資源が眠る海洋は極限環境の一つ、その調査には自律型ロボットが不可欠。東京大学等と共同開発した水中ロボットを用い、駿河湾で生物自動捕獲に成功。



〈cobaco tobata〉  
2017

築約60年の旧産婦人科医院だったレトロな建物を工学部の研究室がリノベーション。個性豊かなショップが集まる「小箱(コバコ)」として、地域の憩いの空間に。



〈クスリッピー〉  
2018

情報工学部学生による発明品。薬の飲み忘れを教えてくれるロボット「クスリッピー」。第5回ソレコンで「いいね!賞」を受賞。



〈無人店舗 con-tech〉  
2019

未来を感じられるキャンパスを目指し、(株)QTnetと共に設置。「顔認証」や「画像認識」など最先端技術が搭載。この環境から学生のアイデア創出を目指す。



〈Dr.OHNO〉  
2020

九工大発、次世代光触媒技術が製品化。LEDなど室内光でも高い殺菌・除菌効果を発揮する逸品!今後のウイルス対策にも大きな期待が寄せられている。

# Kyutech Collection

1909-2021

未来を思考する「モノづくり」と「ひとづくり」



国立大学法人  
九州工業大学

工学部/大学院工学府(戸畑キャンパス) 情報工学部/大学院情報工学府(飯塚キャンパス) 大学院生命体工学研究科(若松キャンパス)